

県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

要旨

〈今期（2024年10月時）〉

業況：全般は改善 売上減少、販売単価、仕入単価ともに低下、採算改善

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2024年7月時調査）に比べ +1.0^{ポイント}の 11.2 と改善し、先行き（2025年1月時予想）も今期比+2.6^{ポイント}の 13.8 と改善の見通し。
- ・売上 DI は前回比▲7.5^{ポイント}の 3.2 と減少したが、先行きは今期比+7.8^{ポイント}の 11.0 と増加の見通し。
- ・採算 DI は前回比+0.3^{ポイント}の▲11.6 と改善し、先行きも今期比+2.5^{ポイント}の▲9.1 と改善の見通し。
- ・販売単価 DI は前回比▲4.6^{ポイント}の 18.7 と低下し、先行きも今期比▲0.5^{ポイント}の 18.2 と低下の見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比▲7.8^{ポイント}の 40.6 と低下し、先行きも今期比▲6.8^{ポイント}の 33.8 と低下の見通し。
- ・引き合い DI は前回比+5.9^{ポイント}の 7.8 と増加したが、先行きは今期比▲1.3^{ポイント}の 6.5 と減少の見通し。
- ・在庫 DI は前回比▲4.4^{ポイント}の 0.7 と減少し、先行きも今期比▲4.6^{ポイント}の▲3.9 と減少の見通し。
- ・今期は、売上は減少したが、仕入単価が低下したことにより、採算が改善し業況全般も改善した。先行きは、売上が増加し、採算も改善する見通しであり、業況全般も改善の見通しとなった。

資金繰り・設備・雇用：資金繰りは悪化、設備不足は改善、人手は不足が続く

- ・資金繰り DI は前回比▲0.9^{ポイント}の▲9.7 と悪化したが、先行きは今期比+0.6^{ポイント}の▲9.1 と改善の見通し。
- ・設備 DI は前回比+0.3^{ポイント}の▲8.5 と改善し、先行きも今期比+1.3^{ポイント}の▲7.2 と改善の見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は前回比▲5.5^{ポイント}の▲35.1 と悪化し、先行きは今期比+1.1^{ポイント}の▲34.0 と改善するが、引き続き人手不足の見通し。労働時間 DI は、前回比▲0.6^{ポイント}の 1.3 と減少したが、先行きは今期比 +2.0^{ポイント}の 3.3 と増加の見通し。賃金 DI は前回比▲11.1^{ポイント}の 37.9 と減少し、先行きも今期比▲5.0^{ポイント}の 32.9 と減少の見通し。

経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「人手不足・技術者不足」が 55.5%と最も多く、主な対応方針は「新規採用・獲得」が 44.5%であった。2 番目に多かったのが「売上減少・停滞」の 41.3%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が 31.6%であった。3 番目に多かったのが「採算悪化」の 36.8%であり、主な対応方針は「収益力確保」が 23.9%であった。

物流の 2024 年問題の影響

- ・物流の 2024 年問題の影響として、最も多かったものは、「運賃が上昇している」が 62.6%であった。2 番目に多かったものは「運賃の上昇を理由とした仕入れ品の値上げ要請がある」が 29.0%であった。

資金調達の借入金利の状況

- ・資金調達の借入金利の状況について、最も多かったものは、「引き上げ済み」が 44.2%であった。2 番目に多かったものは「引き上げの要請がある」が 26.0%であった。

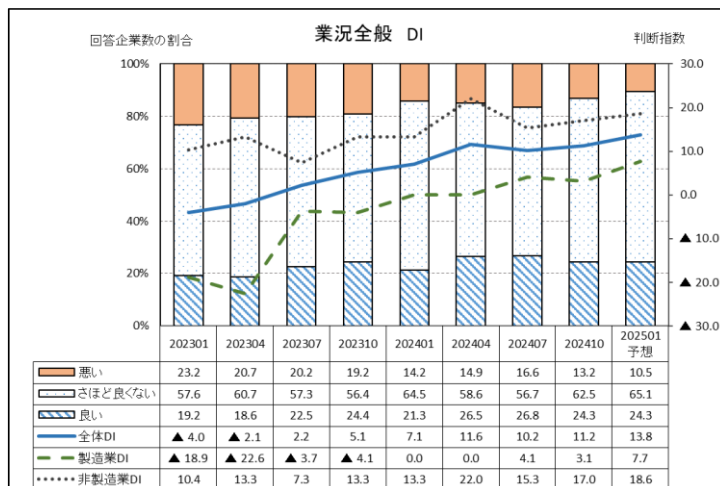
業況全般

業況全般 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善する見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、11.2（前回比+1.0^{ポイント}）と改善した。

製造業 DI は 3.1（同▲1.0^{ポイント}）と悪化したが、非製造業 DI は 17.0（同+1.7^{ポイント}）と改善した。先行きでは、全体 DI は 13.8（今期比+2.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 7.7（同+4.6^{ポイント}）と改善する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 18.6（同+1.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

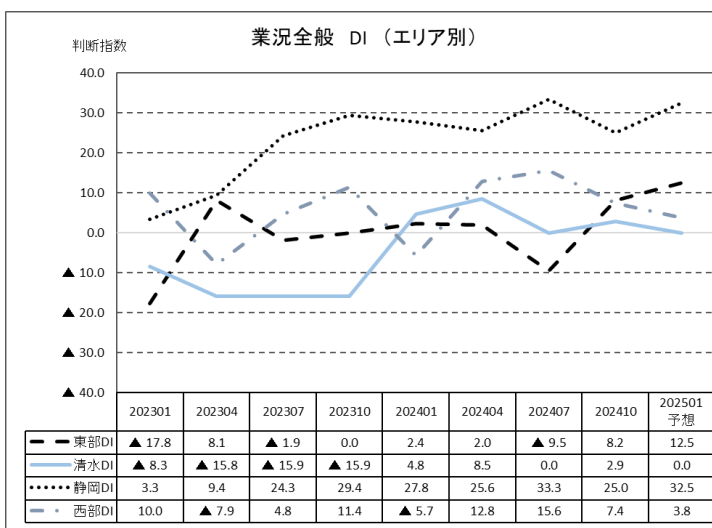


業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は、東部エリア、清水エリアが改善したが、静岡エリア、西部エリアは悪化した。先行きは東部エリア、静岡エリアは改善するが、清水エリア、西部エリアは悪化する見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、東部 DI が +8.2（前回比+17.7^{ポイント}）、清水 DI が 2.9（同 +2.9^{ポイント}）と改善したが、静岡 DI が 25.0（同 ▲8.3^{ポイント}）、西部 DI が 7.4（同 ▲8.2^{ポイント}）と悪化した。

また、先行きについては、東部エリア、静岡エリアは改善する見通しであり、清水エリア、西部エリアは悪化する見通しである。



売上

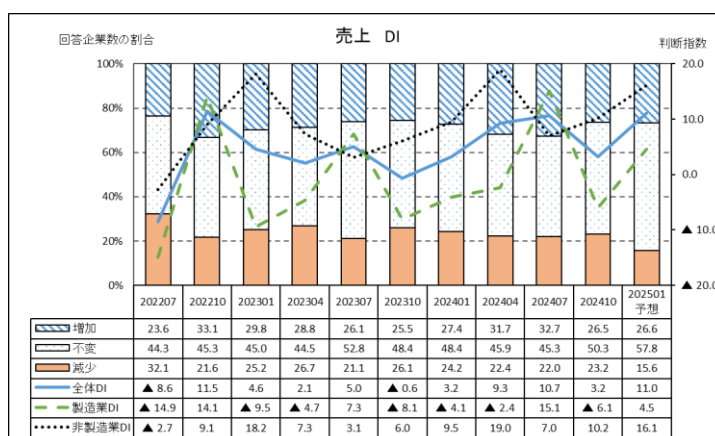
売上 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は、3.2（前回比▲7.5^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は▲6.1（同▲21.2^{ポイント}）と減少したが、非製造業 DI は10.2（同+3.2^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は11.0（今期比+7.8^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは4.5（同+10.6^{ポイント}）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも16.1（同+5.9^{ポイント}）と増加する見通しである。



採算

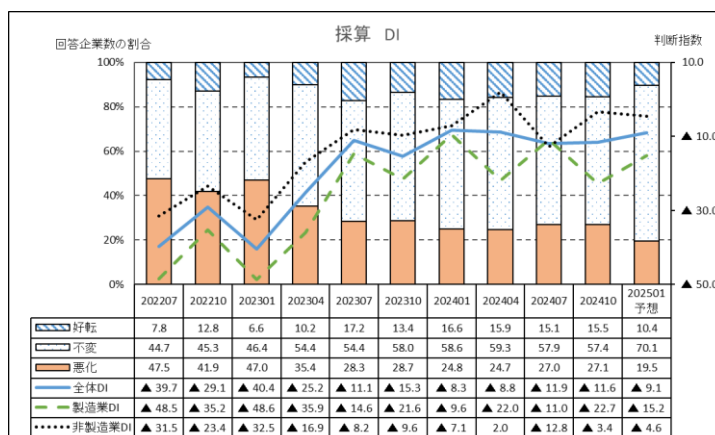
採算 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

今期の採算 DI における全体 DI は、▲11.6（前回比+0.3^{ポイント}）と改善した。

製造業 DI は▲22.7（同▲11.7^{ポイント}）と悪化した。非製造業 DI は▲3.4（同+9.4^{ポイント}）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲9.1（今期比+2.5^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲15.2（同+7.5^{ポイント}）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲4.6（同▲1.2^{ポイント}）と悪化する見通しである。



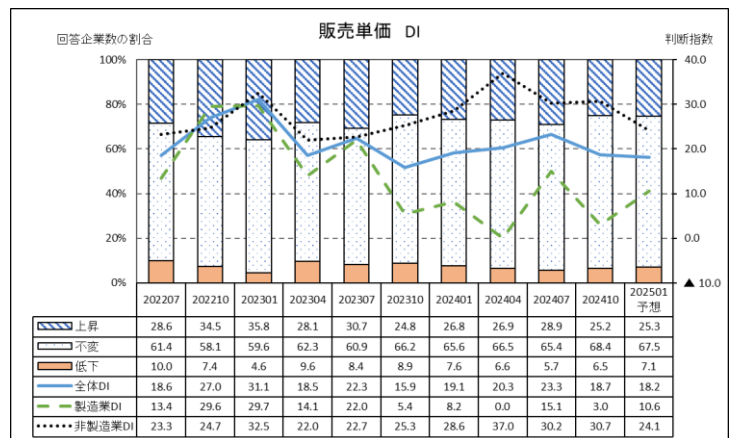
販売単価

販売単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下の見通し

今期の販売単価 DI における全体 DI は、18.7（前回比▲4.6^{ポイント}）と低下した。

製造業 DI は 3.0（同▲12.1^{ポイント}）と低下したが、非製造業 DI は 30.7（同+0.5^{ポイント}）と上昇した。先行きでは、全体 DI は 18.2（今期比▲0.5^{ポイント}）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 10.6（同+7.6^{ポイント}）と上昇する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 24.1（同▲6.6^{ポイント}）と低下する見通しである。



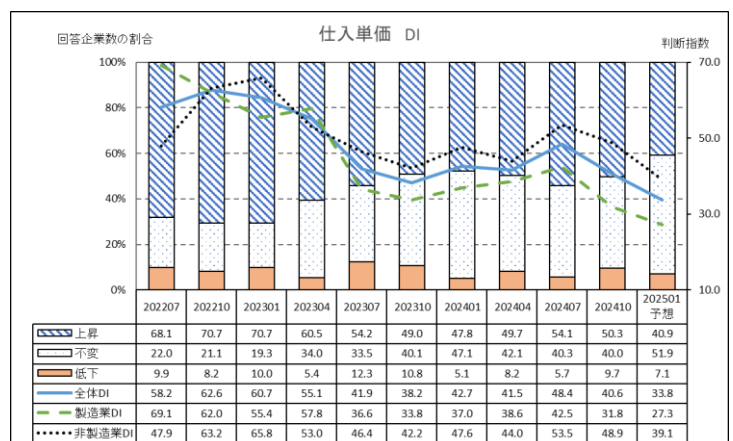
仕入単価

仕入単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下する見通し

今期の仕入単価 DI における全体 DI は、40.6（前回比▲7.8^{ポイント}）と低下した。

製造業 DI は 31.8（同▲10.7^{ポイント}）と低下し、非製造業 DI も 48.9（同▲4.6^{ポイント}）と低下した。先行きでは、全体 DI は 33.8（今期比▲6.8^{ポイント}）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 27.3（同▲4.5^{ポイント}）と低下する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 39.1（同▲9.8^{ポイント}）と低下する見通しである。



引き合い

引き合い DI は前回に比べ増加したが、先行きは減少の見通し

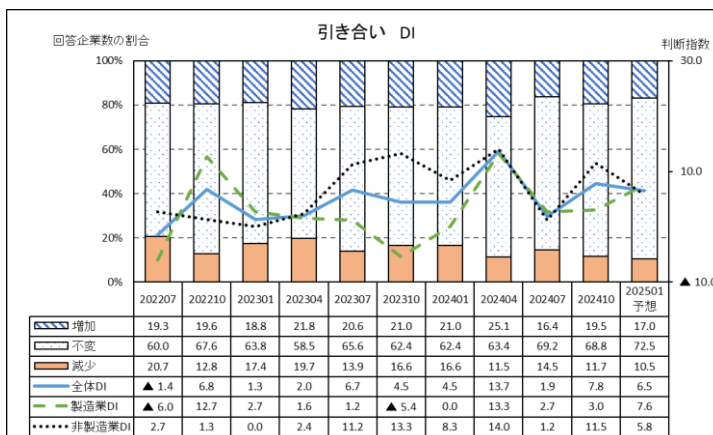
今期の引き合い DI における全体 DI は、7.8

（前回比+5.9^{ポイント}）と増加した。

製造業 DI は 3.0（同+0.3^{ポイント}）と増加し、非製造業 DI も 11.5（同+10.3^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 6.5（今期比▲1.3^{ポイント}）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは 7.6（同+4.6^{ポイント}）と増加する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 5.8（同▲5.7^{ポイント}）と減少する見通しである。



在庫

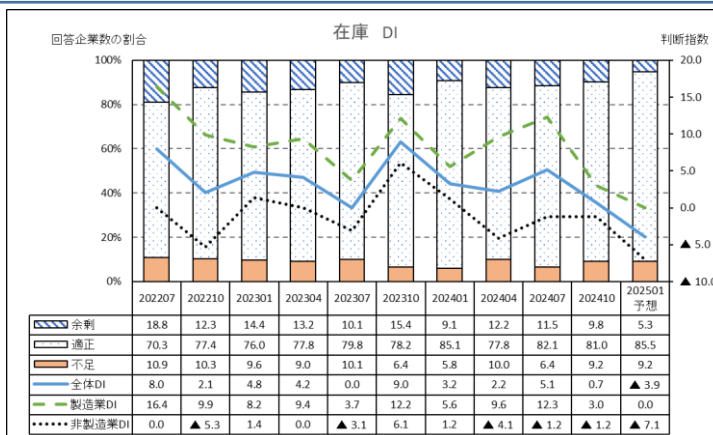
在庫 DI は前回に比べ減少し、先行きも減少の見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は、0.7（前回比▲4.4^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は 3.0（同▲9.3^{ポイント}）と減少し、非製造業 DI は▲1.2（同±0.0^{ポイント}）と同水準だった。

先行きでは、全体 DI は▲3.9（今期比▲4.6^{ポイント}）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは 0.0（同▲3.0^{ポイント}）と減少し、非製造業 DI の先行きは▲7.1（同▲5.9^{ポイント}）と減少する見通しである。



資金繰り

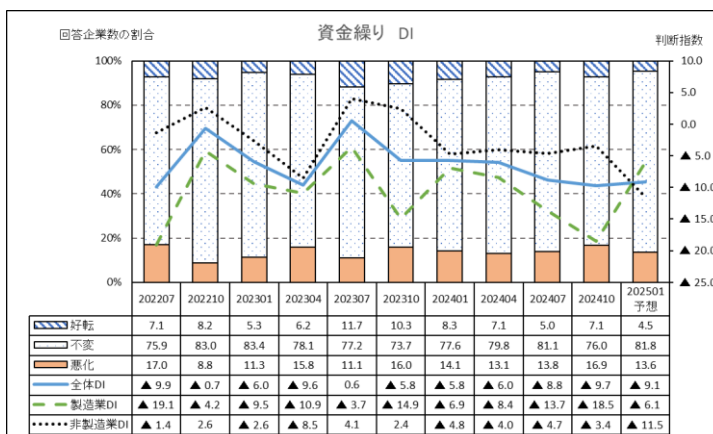
資金繰り DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は、▲9.7（前回比▲0.9^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲18.5（同▲4.8^{ポイント}）と悪化した、非製造業 DI は▲3.4（同+1.3^{ポイント}）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲9.1（今期比+0.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲6.1（同+12.4^{ポイント}）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲11.5（同▲8.1^{ポイント}）と悪化する見通しである。



設備

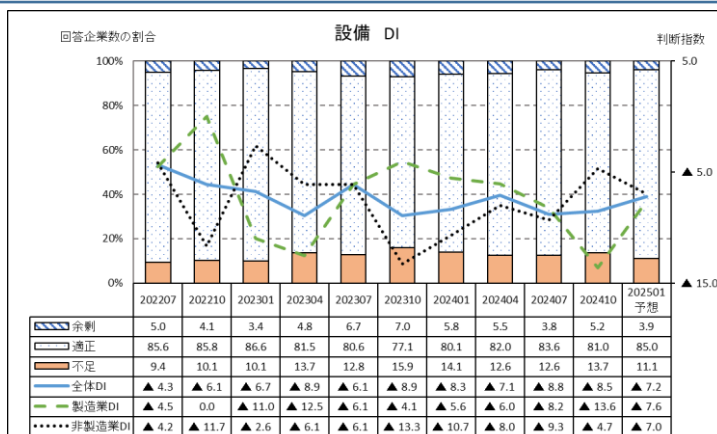
設備 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

今期の設備 DI における全体 DI は、▲8.5（前回比+0.3^{ポイント}）と改善するも、設備不足の状態が続く。

製造業 DI は▲13.6（同▲5.4^{ポイント}）と悪化したが、非製造業 DI は▲4.7（同+4.6^{ポイント}）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲7.2（今期比+1.3^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲7.6（同+6.0^{ポイント}）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲7.0（同▲2.3^{ポイント}）と悪化する見通しである。

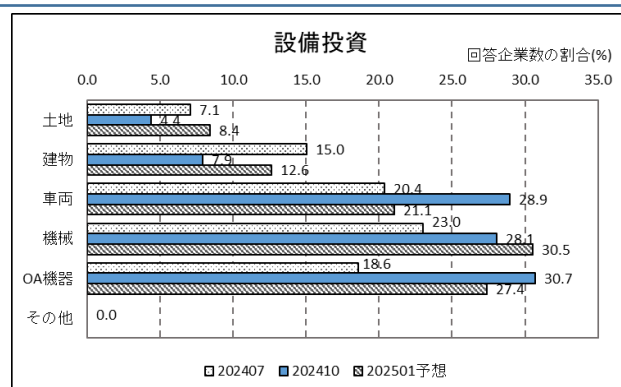


設備投資（複数回答可）

設備投資については、先行きも機械、OA 機器、車両が主流

今期の設備投資の状況は、OA 機器 30.7%、車両 28.9%、機械 28.1%、建物 7.9%、土地 4.4%であった（その他は回答なし）。

先行きでは、機械が 30.5%、OA 機器が 27.4%、車両 21.1%、建物 12.6%、土地 8.4%に設備投資する見通しである（その他は回答なし）。

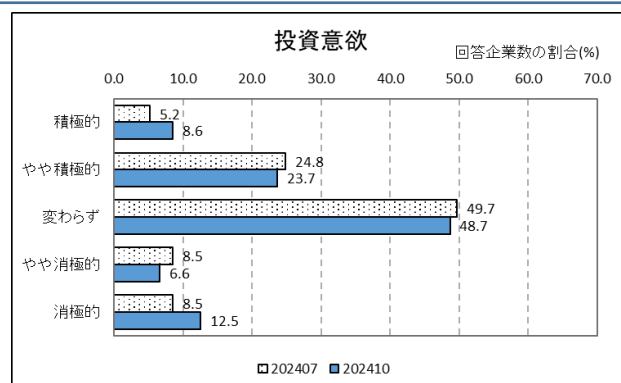


投資意欲

「積極的」が 8.6%、「消極的」が 12.5%と増加し、「やや積極的」が 23.7%、「変わらず」が 48.7%、「やや消極的」が 6.6%と減少した

今期の投資意欲の状況は、

「積極的」8.6%（前回比+3.4^{ポイント}）、
「やや積極的」23.7%（同▲1.1^{ポイント}）、
「変わらず」48.7%（同▲1.0^{ポイント}）、
「やや消極的」6.6%（同▲1.9^{ポイント}）、
「消極的」12.5%（同+4.0^{ポイント}）であった。



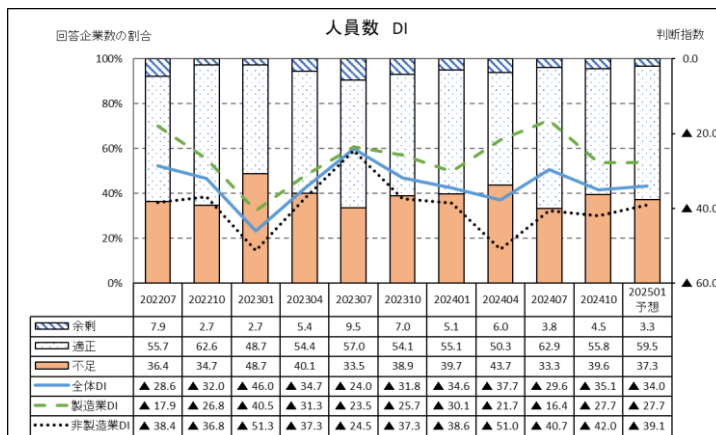
人員数

人員数 DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の人員数 DI における全体 DI は、▲35.1（前回比▲5.5^{ポイント}）と、更に人手不足の状態となった。製造業 DI は▲27.7（同▲11.3^{ポイント}）と悪化し、非製造業 DI も▲42.0（同▲1.3^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲34.0（今期比+1.1^{ポイント}）と改善するが、人手不足は続く見通しである。

製造業 DI の先行きは▲27.7（同±0.0^{ポイント}）と同水準の見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲39.1（同+2.9^{ポイント}）と改善する見通しである。



労働時間

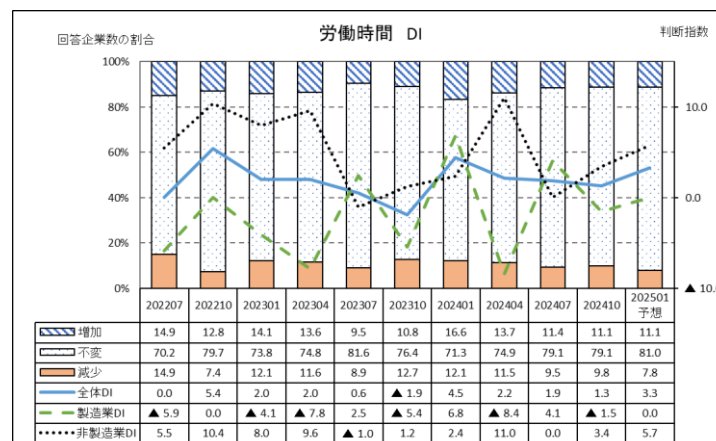
労働時間 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の労働時間 DI における全体 DI は、1.3（前回比▲0.6^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は▲1.5（同▲5.6^{ポイント}）と減少したが、非製造業 DI は3.4（同+3.4^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は3.3（今期比+2.0^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは0.0（同+1.5^{ポイント}）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも5.7（同+2.3^{ポイント}）と増加する見通しである。



賃金

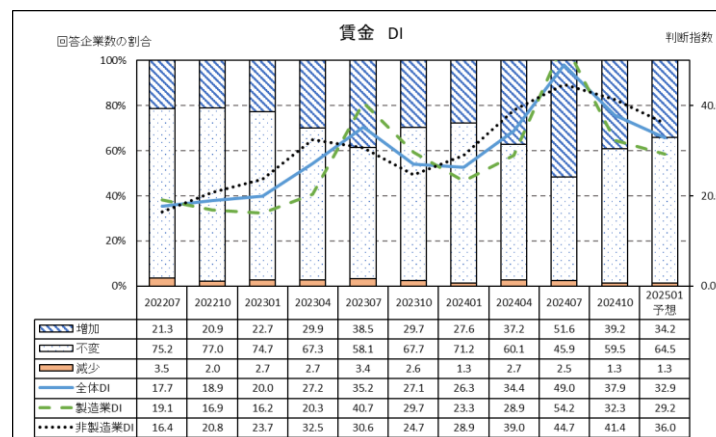
賃金 DI は前回に比べ減少し、先行きも減少の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は、37.9（前回比▲11.1^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は32.3（同▲21.9^{ポイント}）と減少し、非製造業 DI も41.4（同▲3.3^{ポイント}）と減少した。

先行きでは、全体 DI は32.9（今期比▲5.0^{ポイント}）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは29.2（同▲3.1^{ポイント}）と減少する見通しであり、非製造業 DI の先行きも36.0（同▲5.4^{ポイント}）と減少する見通しである。



経営上の課題（2つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

経営上の課題として最も多かったものは「人手不足・技術者不足」が55.5%であった。その課題に対する対応方針として「新規採用・獲得」が44.5%、「人材育成・教育の充実」が31.6%、「女性の業務範囲の拡大」と「外国人の採用」がともに13.5%であった。

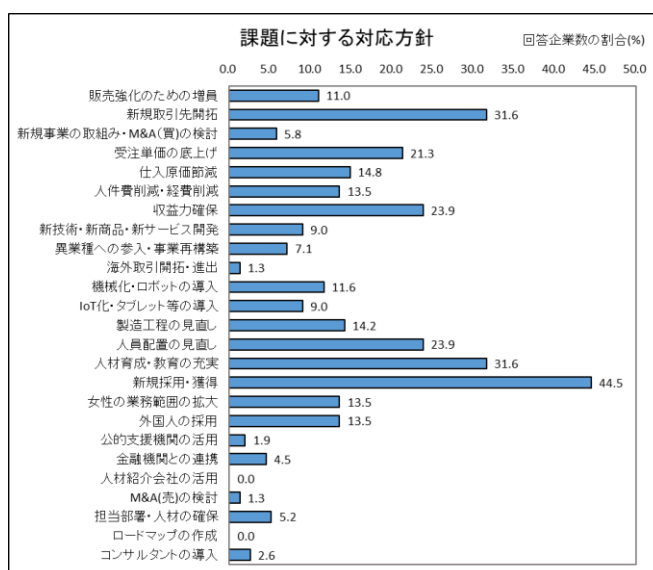
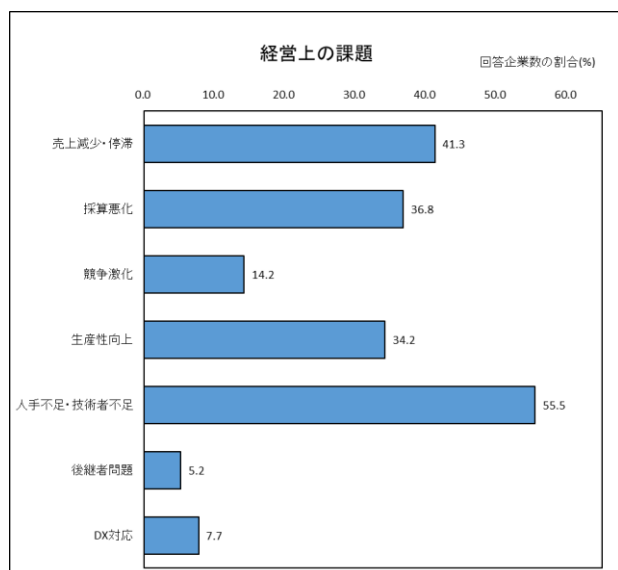
2番目に多かったものは「売上減少・停滞」が41.3%であり、対応方針として「新規取引先開拓」が31.6%、「販売強化のための増員」が11.0%、「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」が5.8%であった。

「採算悪化」は36.8%であり、対応方針として「収益力確保」が23.9%、「受注単価の底上げ」が21.3%、「仕入原価節減」が14.8%、「人件費削減・経費削減」が13.5%であった。

「生産性向上」は34.2%であり、対応方針として「人員配置の見直し」が23.9%、「製造工程の見直し」が14.2%、「機械化・ロボットの導入」が11.6%、「IoT化・タブレット等の導入」が9.0%であった。

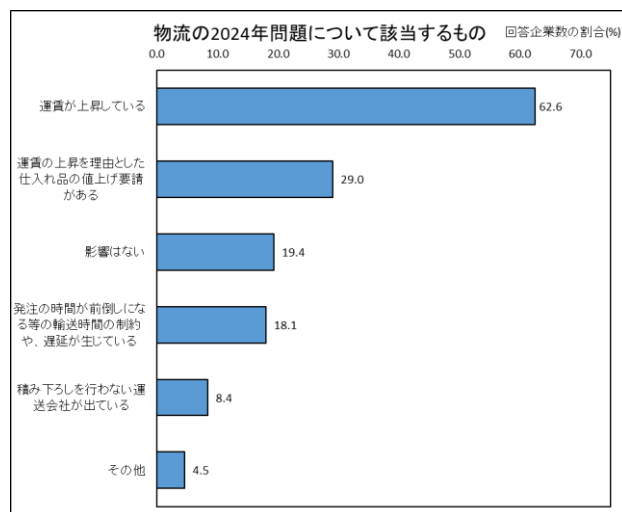
「競争激化」は14.2%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が9.0%、「異業種への参入・事業再構築」が7.1%、「海外取引開拓・進出」が1.3%であった。

「DX対応」は7.7%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が5.2%、「コンサルタントの導入」が2.6%であり、「ロードマップの作成」との回答は無かった。「後継者問題」は5.2%であり、対応方針として「金融機関との連携」が4.5%、「公的支援機関の活用」が1.9%、「M&A（売）の検討」が1.3%であり、「人材紹介会社の活用」との回答は無かった。



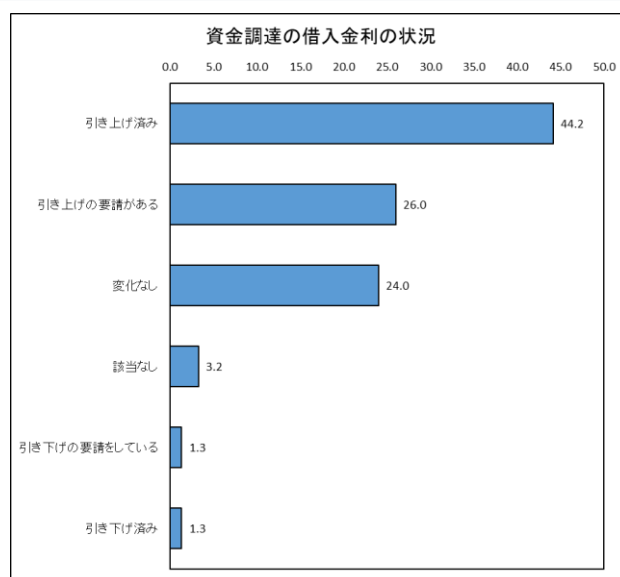
物流の 2024 年問題の影響（複数回答可）

物流の 2024 年問題の影響として、最も多かったものは、「運賃が上昇している」が 62.6%であった。2 番目に多かったものは「運賃の上昇を理由とした仕入れ品の値上げ要請がある」が 29.0%であった。次いで「影響はない」が 19.4%、「発注の時間が前倒しになる等の輸送時間の制約や、遅延が生じている」が 18.1%、「積み下ろしを行わない運送会社が出ている」が 8.4%、「その他」が 4.5%であった。



資金調達の借入金利の状況

資金調達の借入金利の状況について、最も多かったものは、「引き上げ済み」が 44.2%であった。2 番目に多かったものは「引き上げの要請がある」が 26.0%であり、以下、「変化なし」が 24.0%、「該当なし」が 3.2%、「引き下げの要請をしている」「引き下げ済み」がともに 1.3%であった。



特徴的なコメント

業種	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食品製造業	年初より堅調に推移している	例年、年末にかけて需要が増加する見込み
木材・木製品製造業	会社全体の売上は減少しているが、大手取引先の売上増により粗利率が改善している	大手先からの受注が堅調に推移する見込み
パルプ・紙・紙加工品製造業	一部商品の競争激化が、売り上げや販売単価に影響を出し始めている	原料の古紙の価格が上昇する可能性があり、古紙価格が上昇すると見通しが厳しい
金属製品製造業	全般的には低迷しているが、一部業界の好需要の引き合いがあり、バブル的に仕事量の増大有	10月より下半期に入り、各メーカーの売上予算が増大する見通しを踏まえ、売上増を期待する
金属製品製造業	2024年度は低調であった	2025年度より多少は復調する見込み
一般機械器具製造業	受注状況は変わらず悪い	コストがより厳しくなる見込み
一般機械器具製造業	3ヶ月前比で若干業況は良くなった感はあるが、一部の企業のみであり、全体的には未だ低迷している	変わらず仕入れ価格が上昇している物もあり、仕入れ値が上昇した物は値上げをしていく方針
自動車・同部品製造業	この2ヶ月は、引き合いも少なく落ち込んだ	賃金、仕入れ価格の上昇は避けられないが、引き合いや売り上げは少し回復する見込み
建設業	引き合いはあるが、受注に繋げるには人員並びに協力業者の確保がネックとなっている	足元の状況が継続すると考える
不動産業	現在進行中の大型案件なし、小ぶりの案件の数をこなして業績を作っている状況	大型案件の購入希望の間合せは増えてきており、大型案件が成立すれば局面が変わってくると考える
卸・小売業	仕入単価の上昇分を価格転嫁し、売上も上昇した	新規出店による費用増加により、採算は悪化する見通し
卸・小売業	業界内での縮小・倒産の話がちらほら聞こえてくるようになった	年末にかけて業界は良くなる見通し 引き続き、原材料はじめ資材の高騰が続く見込み
物流・運輸業	運賃等の改定により業績は改善方向にある	更に値上げ交渉成立があり堅調と予想
医療・福祉	診療報酬のマイナス改定が続き、収入増対策に苦慮している	設備の老朽化により資金流出が増加傾向にある
その他サービス業	原材料の高騰が止まらない	仕入れ価格上昇により採算良はくない見通し

業種	雇用（現状）	雇用（先行き）
飲食品製造業	人員不足の状態が続いている	人員不足の状態は続く見通し
木材・木製品製造業	現状の人員で対応できている	営業の増員を検討していく
金属製品製造業	一部の顧客の需要増により残業、休日出勤で対応している	先行きは不透明の中、飛込みの仕事も多々あるため、体制の強化が課題となっている
一般機械器具製造業	仕事量は増えてはいないが将来の為の若手社員採用は積極的に取り組む	将来の組織構成の見直しを図り、人員の見直しを実施する
自動車・同部品製造業	人員の確保ができず、難儀している	採用を増やしたいが、なかなか難しい 賃金は引き上げるが、物価上昇に見合う転嫁は充分にはできない見込み
建設業	賃金は確実に上昇しているが、採用は新卒・中途共に苦戦している	適正な賃上げに取り組むと共に採用活動を強化していく
卸・小売業	採用不足に伴い、新規採用者の給与をアップした	賃金を上げて採用が増加するかは不明である
物流・運輸業	採用状況の厳しさが増している	倉庫業への引き合いが増加傾向であることから作業員不足が見込まれる
医療・福祉	日本人を探すのに苦労している	賃上げが難しいため、今後、人材確保が難しくなる
その他サービス業	契約社員の時給を引き上げた 当面は自然退職の減少を補填せず、他部署の応援体制等を強化して人件費を抑制したい	次年度の新規採用は最小限に抑える方針だが、部署間のバランスを考慮して、一部新卒採用を実施する方針である

調査の概要

調査時点：2024年10月1日～10月18日

調査方法：郵送による記名アンケート方式

及びWEBによる回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220 社

回答企業：155 社

回答率：70.5%

コード番号	業種名	先数
11	飲食品製造業	9
12	木材・木製品製造業	6
13	パルプ・紙・紙加工品製造業	9
14	化学工業	1
15	金属製品製造業	12
16	一般機械器具製造業	12
17	自動車・同部品製造業	12
18	その他製造業	5
21	建設業	19
22	不動産業	6
31	卸・小売業	19
41	物流・運輸業	14
51	医療・福祉	16
52	その他サービス業	15
	計	155

株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2024年10月28日

〒424-0941 静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011 E-mail smz-center@smz-kenkyu.jp 杉山・福井